



TOHOKU  
UNIVERSITY

# NEWS LETTER



TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

2022.06

Vol.  
25

## 総括副院長（歯科診療部門長）就任の挨拶

東北大学病院  
総括副院長（歯科診療部門長）

江草 宏



1998年 広島大学歯学部 卒業  
1999年 香港大学歯学部 研究助手  
2002年 広島大学大学院歯学研究科 修了(博士)  
2002年 日本学術振興会 特別研究員  
UCLA ワイントロープセンター 客員研究員  
2004年 大阪大学大学院歯学研究科 助手/助教  
2014年 東北大学大学院歯学研究科 教授  
2018年 東北大学病院 副院長  
2018年 東北大学大学院歯学研究科 教授  
歯学イノベーションリエゾンセンター長  
2018年 東北大学 総長・プロボスト室員  
2022年 東北大学病院 総括副院長

令和4年4月1日付で東北大学病院総括副院長（歯科診療部門長）に就任いたしました。当院の基本理念および将来構想は、「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」です。歯科診療部門はこの理念を基に、高次歯科医療を東北医療圏に提供すべく日々全力で取り組んでまいります。

私は、平成30年に高橋哲総括副院長のもと、医療安全・研究担当副院長に命ぜられ、以来、病院運営に携わらせていただいております。令和2年からは、五十嵐薫総括副院長のもと、経営・総務・感染対策担当副院長を経験させていただきました。新型コロナウイルス感染症と対峙しながら、「感染」と「経営」という、相反する重要事項の両立に神経をすり減らす毎日でした。さらには二度にわたり震度6クラスの地震に見舞われ、まさに災害の任期でした。この間、諸刃の剣となり得る攻めの運営方針を温かい目で見守っていただいた五十嵐先生には感謝の言葉もございません。結果的には感染症クラスターを出すことなく、経営的には黒字で任期を終えました。私が何をしたわけでもないのですが、五十嵐先生のリーダーシップに加え、各部署の先生方のご尽力と事務方を含めた歯科部門全体のチームワークに支えていただき、感謝の念に堪えません。

さて、withコロナに慣れてきた昨今ですが、目先のリスク管理に安住すると思えば内向きになりがちです。一方でコロナ禍はICTやAI等の科学技術の発展を強烈に刺激し、社会は予測不可能なほど目覚ましいスピードで変化しています。時を同じくして、政府は科学技術立国の実現に向け10兆円規模の大学ファンドを設置しました。これを背景に、私は総長・プロボスト室員として、世界と伍する研究大学の構築に向けた検討に加わることになりました。また、関連する内閣府の国際研修プログラムに参加させていただき、海外の研究大学の仕組みに触れました。そんな中、我々病院歯科部門は、今こそ戦略的視点をもって創造力と実行力を開放し、新たな価値を生み出す時と考えるようになりました。

私の任期では、臨床系部局として歯科の強みである『臨床現場』の活性化を最重要視し、これを歯学研究科/歯学部と有機的に連携させることで、日々の診療から無理なく臨床研究、先端医療技術や産学連携を生み出し、高度医療人材を育成するシステムを構築していきたいと思っております。また、医科歯科連携を強みとする我々病院歯科部門の価値を、公共財として幅広いステークホルダー（患者さん、地域医療機関、学生、同窓会、企業、政府など）に見えるようにし、歯科が一体となって共創の場となることを目指します。実現には課題も多ありますが、齋藤正寛副院長、飯久保正弘副院長を中心に特別補佐の先生方に支えていただき、科長会で議論しながら鋭意進めています。同時に、歯学研究科/歯学部との協働を、歯学イノベーションリエゾンセンターを軸に進めてまいります。

皆様にとって「地域になくはならない身近な東北大学歯科」と思ってもらえるよう、歯科構成員の力を結集して尽力してまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### INDEX

- p1 ・巻頭言 / 江草宏 総括副院長
- p2 ・新任特命教授紹介 / 竹内研時 特命教授  
・笹野泰之教授が令和3年度総長教育賞を受賞
- p3 ・活躍する卒業生 / 本田義知 教授  
・PRESS RELEASE  
『歯の移動を促進させる加速矯正治療のメカニズムを解明～矯正治療の期間の短縮へ光明～』
- p4 ・各種おしらせ

